北海道士別市立温根別小学校

# 通学合宿の取組について

## 1　取組のねらいや内容

本校は全戸数200の純農村地帯にある。地域ぐるみで子育てをするという機運が醸成されており、全校児童 25名は明るく素直に育っている。その反面、子どもたちは小規模校特有の固定化された人間関係の中で、何事に対しても受け身になりがちな傾向が強く見受けられる。

そこで、(1)～(3)を育むために、保護者の協力のもと、学校に通いながら３泊４日の通学合宿を計画し、実施した。

(1) 異年齢の子どもたちが寝食を共にし、相互の触れ合いを含め、互いを思いやり、共に協力して集団生活をしようとする態度を育てる。

(2) 多様な人とのふれあいを通して人とかかわる力を高め、社会性を育てる。

(3) 平素と異なる生活環境を通して、主体的な行動力を高める。

## 2　教育課程上の位置付け

特別活動の学校行事として位置付けている。

## 3　活動の概要

(1) 通学合宿の日程

| | 8月20日(火) | 8月21日(水) | 8月22日(木) | 8月23日(金) |
|---|---|---|---|---|
| 6:00<br>7:00<br>8:00 | | 起床・洗顔<br>(朝食作り)<br>朝食・片付け<br>(宿舎清掃)<br>登　校 | 起床・洗顔<br>(朝食作り)<br>朝食・片付け<br>(宿舎清掃)<br>登　校 | 起床・洗顔<br>(朝食作り)<br>朝食・片付け<br>(宿舎清掃)<br>登　校 |
| | 通常授業 | 通常授業 | 通常授業 | 通常授業<br>14:30 解散式 |
| 15:00<br>16:00<br>17:00<br>18:00<br>19:00<br>21:00<br>22:00 | 16:00　開始式<br>食材の買い出し<br>(夕食作り)<br>夕食・片付け<br>イベント<br>(天体観測)<br>自　由<br>就寝準備<br>就　寝 | 15:00　入浴<br>食材の買い出し<br>(夕食作り)<br>夕食・片付け<br>イベント<br>(温根別の昔の話)<br>自　由<br>就寝準備<br>就　寝 | 食材の買い出し<br>(夕食作り)<br>夕食・片付け<br>イベント<br>(花火等)<br>自　由<br>就寝準備<br>就　寝 | 下校<br>※１・２年生は夕食後帰宅する。<br>※１・２年生の宿泊は三日目のみ(8月22日) |

(2) 実施にあたり苦労した点や工夫した点

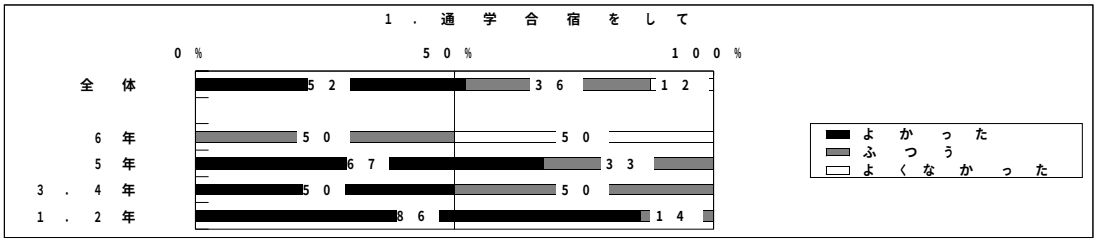
① ４日間の日課は、高学年が中心に自主的に計画し、６年生がリーダーとなり縦割り班で生活する。

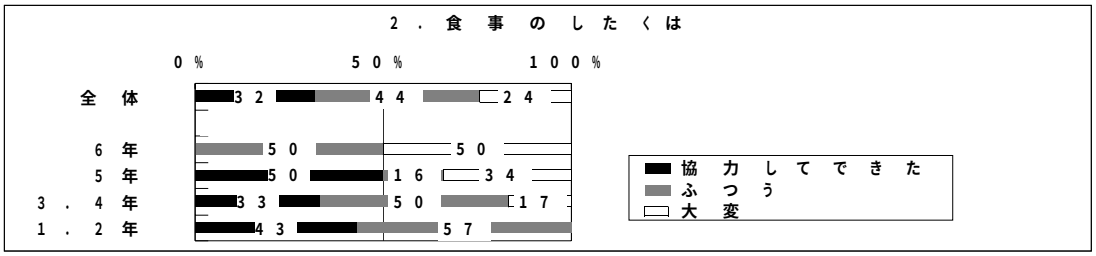
② この環境でしか実施できないような教育活動を豊富に取り入れるよう工夫する。
・地域の人など学校以外の人とかかわる機会をもてるようにする。
（天体観測、地域の昔話など）
・食事は、計画や買い出しなども含めて班ごとに行う。
③ 火気や刃物などの危険については十分に気配りをする。
④ 教師や保護者は、子どもから目は離さず、必要最小限の援助・助言にとどめるようにする。
⑤ 教師も自分たちで食事を作る。
⑥ 子どもの健康診断や健康相談を行い、個々の子どもの健康状態を把握する。

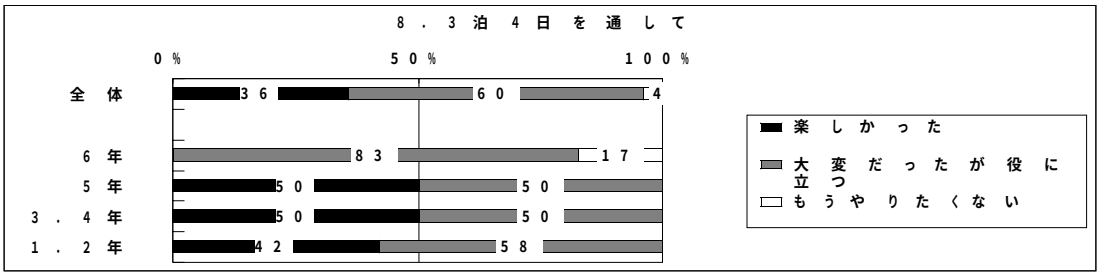
## 4 活動の評価方法

(1) 子どもの自己評価や感想文、子どもへのアンケート調査
(2) 保護者へのアンケート調査

**○アンケート結果から　　《児童アンケート》**抜粋

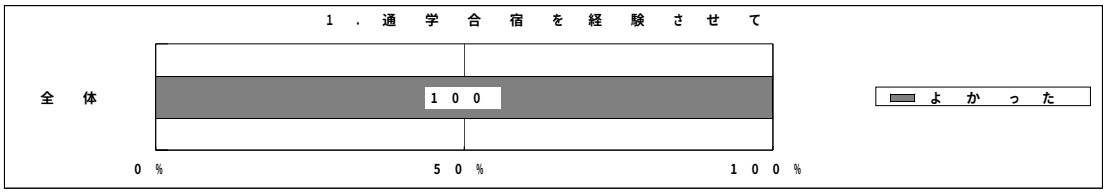


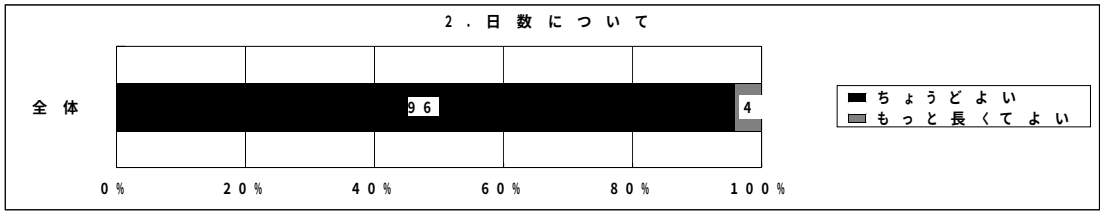



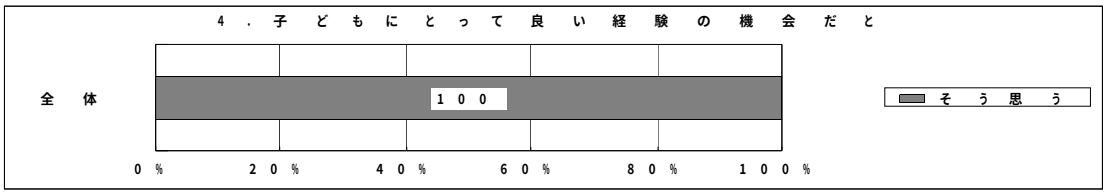



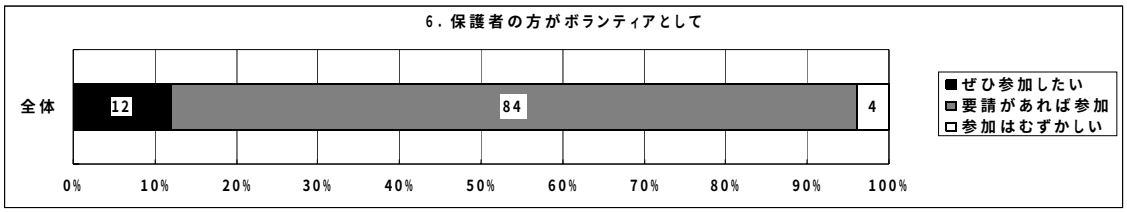

《楽しかったこと》　・夜の自由時間，みんなと遊んだこと　・みんなと寝たこと
・イベントや夜のこわい話　・ごはんを作ったこと　・夜中に話をしたこと
《大変だったこと》
・食事の準備や片づけのこと　・なかなか眠れなかったこと
・自由時間があまりとれなかったこと　・ふとんを敷いたこと　・買い出し

《保護者アンケート》抜粋




## 5　学校支援委員会の組織・運営

| 氏　　名 | 勤務先又は機関・団体名 | 職　　名 | 備　　考 |
|---|---|---|---|
| | 温根別小学校 | 校　長 | |
| | 温根別小学校ＰＴＡ | 会　長 | |
| | 温根別連合子ども会 | 会　長 | |
| | 温根別町づくりの会 | 会　長 | |
| | 温根別中学校 | 校　長 | |
| | 農業（温根別公民館） | 館　長 | |

※ＰＴＡ会長が中心となり、各体験活動ごとに、学校への協力、支援のあり方等を検討する。

## ６　推進地域としての取組

(1) 地域の特徴を生かし、豊かな自然にふれることを通して、豊かな心を育て、健康でたくましく生きる力を身に付けた人間形成をめざしている。

(2) 市内の１１校を推進校とし、学校と地域が連携を図り、地域の素材や風土を生かした自然体験活動、ボランティア活動などを通して、自然や人間に対する思いやりの心を醸成している。

## ７　活動の成果

(1) 教師や保護者が必要最小限の援助・助言にとどめたため、徐々に主体的な行動が多くなった。６年生は班の中心として低学年をリードする場面が多く見られた。

(2) 高学年が中心に日程や内容を決定したことにより、責任感が高まり、班内のまとまりと共に自治的な生活が見られた。

(3) 平素と異なる環境の中で生活することによって普段の生活を振り返り、家庭の良さやありがたさを体感することができた。

(4) 食材の購入も自分たちで行うようにさせたため、予算に応じた買い物を心がけるなど金銭感覚が養われた。

(5) 多様な人との出会いによって、人とかかわる力や社会性の涵養につながった。

(6) 公民館を利用したことにより、施設間の連携が図られた。

(7) 子どもだけでなく、地域や保護者からの事後アンケートによりいろいろな考え方を知ることができ、今後の参考とすることができた。

## ８　今後の課題

(1) 生活の内容(学校外の部分)をより普段の生活に近づけたものにするべきか今回のようにイベントを組み込むかの検討が必要である。

(2) 生活の内容を決めるに当たっては、子どもの主体性を育てるため学校側や保護者のねらいと子どもの意見をどうすりあわせるか事前に検討しておく必要がある。

(3) 入浴は施設の都合上、温泉を利用したが、今後、地域の協力を得て家庭の風呂を利用することも検討する。

(4) 保護者や地域への事前説明を徹底し、共通理解を図り、両者の協力も得て計画的に実施する必要がある。

## ◎　おわりに

４日間の体験を通して、子どもたちには、今まで当たりまえのことだと受けとめていた親にしてもらっていたことへの感謝の気持ちや自主性、社会性などが生まれつつあるといえる。また、大人（教師）たちも、寝食を共にしなければ沸いてこない連帯感や一体感、また失敗や不満を乗り越えたり我慢する気持ちの大切さを実感し、学校では見られない貴重な子ども理解の４日間だったといえる。